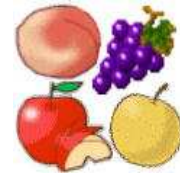




平成25年度 果樹情報 特別号

～ ももせん孔細菌病の防除対策について ～

(平成25年6月7日)



福島県農林水産部農業振興課

昨年、県北地方のもも産地を中心にせん孔細菌病が多発しましたが、今年も発生が多い傾向にあります。

今後の発生拡大に十分に注意し、防除対策を徹底しましょう。

1 現在の発生状況 (平成25年5月31日付け病害虫防除情報：福島県病害虫防除所より)

福島地域、伊達地域では、5月下旬の春型枝病斑の発生ほ場割合が前年より高く、伊達地域では新梢葉の発生ほ場割合も前年より高い状況となっています。また、中通り南部や会津地域でも春型枝病斑と新梢葉での発生が確認されています。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、参照してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう

2 今後の対策のポイント

せん孔細菌病は、薬剤散布だけでは発生を抑えることが難しい病害ですので、耕種的防除と組み合わせて**病原菌の密度を常に低い状態に維持する**ことが、本病を防除する上で重要なポイントとなります。

(1) 耕種的防除

前年秋季に枝(新梢)に感染した病原菌は潜伏して越冬し、4月に入り気温が上昇してくると春型枝病斑(スプリングキャンカー)を形成し、これが重大な1次伝染源となります。春型枝病斑からの病原菌の感染は7月頃まで長期間継続しますので、春型枝病斑の除去を徹底しましょう。

春型枝病斑から病原菌が葉や果実に感染する際、初期症状として春型枝病斑の周囲の葉や果実に集中して発病が見られるようになり、これをツボ状発病と呼びます。これらの発病葉や発病果実も2次伝染源となりますので、できるだけ早めに見つけ除去するよう心がけましょう。

除去した枝等は、ほ場外に搬出するなどして処分してください。



図1 春型枝病斑
(スプリングキャンカー)



図2 せん孔細菌病の発病葉と発病果実

(2) 薬剤防除

本病の病原菌は雨滴に混じって分散し、風が伴うと分散が助長されます（風だけでは分散できない）。

今後、降雨（風が伴う場合は特に注意）を重ねるごとに、春型枝病斑や発病葉、発病果実などの伝染源から感染が拡大するおそれがあります。

各地域の防除基準に基づき、散布間隔が開かないよう防除を徹底するとともに、予防散布を基本とし、降雨前の薬剤散布を心がけましょう。

(3) 有袋栽培

袋かけは、果実への感染を防止する効果が期待できますので、発生が多い園地では、有袋栽培を検討してください。

有袋栽培を行う場合は、果実は幼果ほど感染しやすいので、仕上げ摘果を実施の上、薬剤散布を実施しできるだけ早期に袋かけを行いましょう。また、現在少雨傾向が続いていますが、降雨前の袋かけにより、高い感染防止効果が期待できます。

(4) 防風対策

本病は、風を伴う降雨により感染が助長されます。

風当たりの強い園地では防風ネットや防風林による防風対策が有効ですので、設置を検討してください。なお、防風ネットの導入については補助事業がありますので、最寄りの農林事務所に御相談ください。

(5) その他の対策

園地内の停滞水など過湿条件では、葉の気孔が開き急激な感染を引き起こす要因となるので、排水の悪い園地では、排水対策を徹底しましょう。

また、肥培管理を徹底し、適正な樹勢を維持するよう心がけましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gi_jyutsu_jyohou

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>